

第 1 回検討委員会での主な意見

①新たな拠点の創出に関する意見

- ・里山交流館ができたことでよかった点は、地域の活性化につながったこと。北部の丘陵地域の中に何箇所か拠点を作り、それぞれ地域の特色を出してやったらよいのではないかな。

②地域資源を活かしてお金を稼ぐ仕組みに関する意見

- ・市に頼ってばかりではなく、自分たちが地域でお金を作り、まわしていくことを考えたい。
- ・地域自らが稼ぐことを許す条件整備や規制緩和ができれば、観光や学習支援等、やろうと思ったら今すぐにでもできる環境にある。
- ・例えば、近郊緑地特別保全地区に指定してしまえば、土地の買い取り制度がある。

③市街化調整区域での居住継続や新たな居住の促進に関する意見

- ・下小山田町大善地区には現在 37 世帯いるが、20～30 年後には 1/3 となる見込み。住宅の大部分は土地利用に制限があるために道路が拡張されることがなく、子世帯が家を構えることも難しい。
- ・他の地域から訪れる人でこの地域に住みたいと希望する人はいるが、市街化調整区域のため住むことができない。地元の人が代々住めるようにしてほしい。
- ・「市街化調整区域だからできないことがない」と考えるのではなく、市街化調整区域でもできることをもう少し詰めて考える必要性を改めて感じた。

④観光のための交通利便性の向上

- ・遊歩道計画ができればよいと考えている。その時、小田急多摩線延伸の駅周辺の土地利用等、集客の手段については先行して考えるべき。
- ・奈良ばい谷戸には植物好きな人がよく来訪する。たくさんの人に来てもらうために専用駐車場がほしい。バスは 1 時間に 1 本しかないため、バスの本数増やしてほしい。
- ・多摩ニュータウン側からのアクセスが難しくなっているので、広範囲で人が動ける状態のアクセス条件をあげていくことが大事。

⑤情報発信のサポート

- ・まちだ結の里のホームページはあるが、検索でヒットしにくく、更新もなかなかできない状態である。花の咲く期間は短いため、町田市ホームページでこまめに情報を更新してもらいたい。

⑥その他

○地籍事業の実施

- ・北部丘陵で優先的に地籍事業を進めてほしい。

○土砂災害計画区域内居住者への対応

- ・土砂災害警戒区域に居住している住民が多い。災害が起きてからでは遅いため、小田急多摩線延伸に伴う新駅の設置の際にその周辺に、駅周辺の整備地域にかかる住民や土砂災害警戒区域内に居住している住民のための住宅地を確保することが考えられる。